

つちおと

1/11(木)

～ 吉野復興大臣 南三陸町視察！ ～



1月11日、吉野復興大臣が4か月ぶりに南三陸町を視察しました。南三陸町産のFSC認証材で建てられた新南三陸町役場にて、循環型のまちづくりについて関係者らと懇談、「丸平木材」でFSC材の加工の様子を視察、「南三陸BIO（バイオ）」で食品残渣などの廃棄物をメタン発酵させ、エネルギーと液肥を得る工場を視察しました。

視察後大臣は「循環型の社会をつくるべく、復興庁としても一生懸命やっていきたい」と述べられました。気仙沼支所としても、引き続き復興の加速化に取り組んで参ります。



1/20(土)

～ 大谷海岸 安全祈願祭&着工式！ ～

1月20日、大谷海岸地区復興事業着工式が行われました。砂浜を残したまま、防潮堤と国道の兼用堤等を整備する工事です。着工式には、国会議員から地元の小学生までたくさんの関係者が集まり、鍬入れ式などで工事の無事を祈りました。最後に宮城県気仙沼土木事務所長から工事着工号令がかけられ、式は祝賀ムードにまつまれました。



～ 進む震災復興【只越地区における復旧・復興】 ～

気仙沼市唐桑町只越地区では只越川、只越漁港など様々な事業が一体となり復興を進めております。只越川の堤防復旧、只越漁港の防潮堤整備では、概ね数十年から百数十年周期で発生が予想される津波に対応するためT. P + 1 1. 3mの堤防整備を行っています。それに伴い、只越橋が架け替えされ、併せて県道や市道も嵩上げされます。

整備される各施設の背後地は、狭隘な窪地となり、土地利用上の課題が生じました。そこで近隣で進められている三陸沿岸道路の整備などから発生する土砂を活用し、窪地となる部分を解消することで、土地の有効利用が可能となりました。

このことは、事業間の計画調整が重要な役割を果たしたと言えるものです。



只越川の嵩上げと只越橋架設状況

平成29年6月17日には只越バイパス（BP）が供用され、11月には只越橋上部工が架設されました。河川と道路の復旧工事は、平成30年度内の工事概成を目指しています。

当該地区の復旧工事を担当されている気仙沼土木事務所にお話しをお聞きしました。

「復興事業では、様々な事業間調整が必要となってくるが、これほど狭いエリアで複数の事業が、同時進行している地区もあまりありません。ここまで事業を進めてこられたのも、地権者ならびに地域の皆様や関係機関のご協力のおかげです。

また11月22日に只越バイパス沿いに展望台を設置しました。事業進捗をお知らせしておりますのでお気軽にお立ち寄りください。」とお話しを頂きました。



只越川BP開通式

只越川
堤防整備状況

只越BP沿いに設置された展望台

◆支所長コラム

新年がスタートいたしました。年のはじめは穏やかな日が続きほっとしていたところ、月の後半は南岸低気圧に続き、最強クラスの寒波に見舞われました。雪によるスリップ事故や転倒、体調管理等に気を付けてこの冬を乗り切りたいです。

さて1月17日に気仙沼市、南三陸町の両市町より、第20回復興交付金の事業計画が提出されました。既に交付された交付金を流用して事業を進めていく傾向となっております。復興創生期間も残すところ3年と少しになりました。新たに発生する課題への対応や事業進捗管理が重要な年になるものと思います。職員一丸となって頑張っていきますので、今年1年もよろしくお願ひ致します。(吉)

12/18日

～ 「心の復興事業」を活用し情報誌発行！～

(一社)プレーワーカーズは、障がいをもつ子どもの親が多く集まるママサークル「コミュニティー広場 ふぁみりあ」のメンバーを中心とした「ハンディっこ座談会」を昨年5月から始めました。

その中で回数を重ねるごとに「障がい」という子どもの個性を受け入れてもらえない現状や地域の理解が少ないため人目が気になる、まわりの視線が痛いなどといった声が大きくなりました。

これらの声を集めて「障がいと向き合うはじめての一步」として冊子「well-being」を発行しました。



1/20土

～ 南三陸町ラムサール条約シンポジウム！～



1月20日、南三陸町で志津川湾のラムサール条約湿地登録に向けたシンポジウムが行われました。

町ネイチャーセンター準備室の阿部拓三氏（復興庁応援職員）が志津川湾の特徴について、ラムサールセンター事務局長中村玲子氏が登録の意味について講演、志津川高校自然科学部とおおさき生きものクラブが活動の報告を行いました。

後半ではさかなクン氏が南三陸のおさかなについて解説。クイズのコーナーでは子ども達が積極的に手を上げて答えていました。

～ 応援職員だより【経営の安定に向けて】～



応援職員の藤原達雄さん（写真右）。南三陸町農林水産課、農地災害復旧復興事業推進協議会に勤務。宮城県出身。平成27年4月から復興庁の復興支援専門員として、農地復旧業務に従事して頂いています。

私は現在、南三陸町農林水産課で被災した農地の復旧・復興のお手伝いをしています。

南三陸町の農地復旧は、約250haの被災農地が点在する24地区については原形復旧とし、まとまりの有る6工区については、面工事と導水路を一体で整備するほ場整備事業で実施されています。特にほ場整備事業の実施地区については、将来の営農の効率を考慮して機能的な道路配置や大区画で工事を進め、平成29年春には廻館工区の一部を除き全工区で完了引渡しが行われ作付けが開始されました。

営農再開にあたっては各工区に営農組合を設立し共同作業で行い、農業機械については被災地域農業復興支援事業により町が機械を導入し無償貸与をしています。

営農が再開したとはいえ、いまだ多くの障害があり期待した収量には程遠い状態ですが、復興した農地の有効活用により、主食用米にあわせWCS栽培・より換金性の高い野菜の導入により営農組合の経営安定や持続性のため微力ながら頑張っています。

復興関連イベント

各地で開催される
復興イベントをご紹介します。

【2月4日（日）】南三陸町国際認証シンポジウム【南三陸町】

FSCやASCといった国際認証についての講演が行われます。午後2時から、町役場交流スペース「マチドマ」にて。

【2月18日（日）】「新しい東北」交流会～東北の未来を共創する～【仙台市】

様々な自治体、企業、NPOなどが集まり、地域の抱える課題にどう取り組んでいるか、どのような展望があるのか、ブース展示等を行います。参加無料、仙台国際センター展示棟（仙台市営地下鉄東西線「国際センター駅」徒歩1分）にて、13時から18時まで開催。お問い合わせは新しい東北事務局（03-6737-9292）まで。

【編集後記】

◆今年もどうぞよろしくお願いいたします。年末年始と寒波が到来、急に冷え込んできました。こたつだけだと背中が寒いのですが、だからといって深く潜り込むとそのまま寝てしまうので、結局エアコンを併用しています。

気仙沼支所の **今月のベストショット** Best★Shot



気仙沼市波路上 岩井崎

中央にそびえる力士像は陸奥国本吉郡（今の気仙沼市）出身で江戸時代に活躍した横綱、秀ノ山雷五郎関の像だよ。

東日本大震災の津波を受けても流出せずに残ったんだ。



これまでに発行した「つちおと」は、復興庁ホームページで御覧いただくことができます。

- ①復興庁のホームページ
- ②宮城復興局
- ③気仙沼支所だより「つちおと」

「つちおと」発行元（お問い合わせ先）

復興庁 宮城復興局 気仙沼支所
電話 0226-23-5301
FAX 0226-23-5310

復興庁ホームページ

<http://www.reconstruction.go.jp/>